

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

| | | 学校名 | 県立七戸養護 | 学校 |
|--------------|--|--|---|-----------|
| 授業について | 教科領域名 (✓又は■で記入する。) | <input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input checked="" type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ） | | |
| | 単元(題材)名 | ほたてロープのテグス外し・磨き | | |
| | 単元(題材)の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の目標を立てたり、活動を振り返り、評価・反省をまとめたりする。【思・判・表】 ・タブレットやアプリケーションの正しい操作手順を知る。【知・技】 ・分からないときはすぐに教師に確認や質問をする。【態】 | | |
| 学習集団と実態 | 学部・学年・人数 | 中学 | 部 | 1～3 年 9 人 |
| | 本単元(題材)における学習集団の主な実態 | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等の I C T 機器に興味をもっている生徒が多いが、タブレット機器操作能力については開きがある。 ・個別の支援を必要な生徒が複数名いる。 | | |
| I C T 活用について | 使用した支援機器・教材の名称 | iPad、アップルペンシル、プロジェクター | | |
| | 使用したアプリケーションの名称 | Google Classroom、CounTik-なんでも数えて管理する、ルーチンタイマー |    | |
| | 主な活用の用途 (✓又は■で記入する。) | (複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (■意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 (■情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input checked="" type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援 | | |
| | I C T 活用のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・作業学習の活動や手立てを改めて見つめ直し、I C T を活用することで生徒にとってより良い支援の在り方を探る。(校内研究に関連して) | | |
| 活用の状況と支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・「Google Classroom」に作業日誌 (PDF ファイル) を入れ、テキストボックスにアップルペンシルで目標や振り返りを記入できるようにした。また、記入した後は、送信して教師に提出するようにした。iPad とアップルペンシルのペアリングに時間がかかったため、タッチペンも活用した。 ・「ルーチンタイマー」は、活動内容を画面に提示しながら音声で伝えることができるとともに、残り時間をタイマーで知らせることができ、生徒にとって分かりやすかった。 ・「CounTik-なんでも数えて管理する」を活用し、仕上げたロープの個数を計測した。以前はそれぞれが手持ちのカウンターを押して数えていたが、一つの iPad で計測するようにし、リーダーへの報告後にその場でアプリ上のボタンをタップする一連の流れの定着を図ったことで、数え忘れが減った。また、プロジェクターで、集計した作業個数をスクリーンに投影して、生徒全員が確認できるようにした。 ・タブレットの操作能力に開きがあるため、全体の進度を合わせながら、適宜個別にアドバイスをした。 ・作業日誌は教室で入力し、作業のみ特別教室で行うなど、活動の場にメリハリができて良かった。 | | | |